

福祉事業所の新たな発想で農作業の効率化

壽（ことぶき）ファーム（揖保郡太子町）



経緯

- ・代表の万壽本（まんじゅもと）佳明さんは、以前は会社勤めをしていたが、転勤で地元に移動となったことを契機に、祖母の家庭菜園を手伝うようになった。そのうち、農業の魅力を感じるようになってとともに農業経営したいという思いが募り、「兵庫楽農生活センター」で新規就農者向けの研修を1年間学び、2021年9月に就農した。
- ・1.3haの農地を借りて、白ネギの周年栽培を中心に妻の絵理香さんと家族経営で運営。収穫物は主に仲卸業者を通じて地域のスーパーに販売している。
- ・勤めていた会社で障害者の雇用に関わっていたこともあり、障害者雇用に可能性を感じていたことから、就農初期から農業経営に農福連携を取り入れている。

取組内容

- ・福祉事業所に白ネギの袋詰め作業を委託している。収穫した白ネギを福祉事業所まで運び利用者が袋詰めし、それを受け取り各販売先へ運搬するというサイクルを繰り返している。福祉事業所に袋詰め作業を委託することで余裕が生まれ、その時間を他の作業に回すことができるので、大きなメリットを感じている。
- ・報酬の算定は福祉事業所と話し合ってポイント制を採用。1ポイント＝1円として、「結束する（3ポイント）」、「袋に入れる（1ポイント）」、「バーコードのシールを貼る（1ポイント）」などの工程の種別にポイント数を決めて、出来高に応じた報酬としている。
- ・福祉事業所の支援員は、いろいろな障害がある利用者に寄り添って、一人ひとりに合った治具（じぐ：補助工具）を工夫して作成している。その結果、1日100袋だった袋詰め作業が、最終的に300袋までスピードアップしている。このように福祉事業所の創意工夫により、農作業の効率化につなげている。

今後の展望等

- ・収穫から出荷までの全ての作業を全て福祉事業所に委託して、一層栽培に集中できる環境になれば理想であるが、自ら農業に特化した福祉事業所を立ち上げる方法もあると考える。また、農場の近くに保育施設を建てて、子供たちに農業に興味を持ってもらえるような場所を提供したいという思いもある。
- ・農福連携の取組をしているからこそ、もっと福祉の現場を知りたい。それには、実際に福祉事業所に入って、利用者と触れ合うことも一つの方法であると思う。